

自我関与を促す体験的な学習を取り入れた道徳科の 授業づくり

ー児童が成長を実感できる評価方法に着目してー

紀の川市立上名手小学校
教諭 池本光夫

【要旨】

本研究では、自我関与を促す体験的な学習を取り入れた道徳科の授業づくりに取り組み、児童が成長を実感できる評価方法の在り方について検討した。

自我関与を促すために、再現法や即興法を用いてロールプレイングを行うことにより、児童は道徳的課題を自分事として捉え、道徳的価値を深めることができた。また「1時間の学びの深まりが分かるワークシート」を活用し、児童の授業での考えの変容や深まりを見取ることができ、児童自身も自己評価や振り返りから成長を実感することができた。さらに、作成した「道徳的価値に関する見取り方シート」を基にして、積み上げた児童の成長の記録を年間や学期を通して見取り、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行う見直しをもつことができた。

【キーワード】

道徳科、自我関与、体験的な学習、ロールプレイング、大きくくりなまとまりを踏まえた評価

1 研究のねらい

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（以下、学習指導要領解説と略記）では「道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価することが求められている。（中略）道徳科における児童の学習状況の把握と評価については、教師が道徳科における指導と評価の考え方について明確にした指導計画の作成が求められる。」（※1）と示されている。このことから、指導と評価の在り方を明確にした道徳科の授業改善が求められていることが分かる。

筆者が実践してきたこれまでの道徳科の授業を振り返ると、2つの課題が挙げられる。

1つ目は、教材上の葛藤や迷いを自分事として考えさせられなかったことである。これまで読み物教材にある道徳的価値を深めるための葛藤や迷いの場面において、児童に立ち止まらせて考えさせることが出来ておらず、当たり前前を当たり前前に答えさせるような授業になっていた。児童は生活する中で、正しい行動をとらなければならないことは理解している。しかし、実際にその状況になると迷うはずの課題が、授業場面では葛藤や迷いがなく正しい行動とされる方を選択していた。いわゆる単なる生活経験上の話合いや登場人物の心情の読み取りに偏った授業になってしまい、本時のねらいに迫りきれなかった。児童に考えさせたい道徳的価値についても深めることができないまま終末に至っていた。

2つ目は、評価である。評価に対する考え方や見取る視点が明確ではなかったため、評価することが難しかった。多くの内容項目を1時間ずつ評価するのではなく、35時間分のワークシートや授業の記録から大きくくりなまとまりを踏まえた評価（注1）について、どのような視点をもって、評価をすると良いのか課題を感じていた。また、児童一人一人の努力を認めたり、励ましたりする個人内評価でありながら、児童が自己の成長を感じられる所見にすることに課題を感じていた。

上記の課題は、所属校の職員間でも共有しており、どのような方法を用いると児童が道徳的課題に着目し、道徳的価値を深められる授業ができるのかという解決の糸口を模索してきた。これらの課題を解決するために、ロールプレイングを取り入れた体験的な学習から児童に自我関与を促すことで、児童が道徳的課題と向き合い、道徳的価値を深めることができる授業づくりと、児童が成長を実感できる評価方法の在り方について検討し、研究を進めることにした。

2 研究の方法

(1) 道徳オリエンテーション

提案授業を行う前に道徳オリエンテーションを実施する。このオリエンテーションでは、道徳科の授業は、学習指導要領解説の「道徳性を養うために行う道徳科における学習」に示されている内容を基に、「道徳科は何を学ぶ時間であるのか」ということを児童と共有する。様々な考え方を認め合うためにも、オリエンテーションを通して、道徳的価値の感じ方や道徳的価値を実現できるかどうかについての葛藤や心の動きは多様であることを教師と児童で確認する。図1は児童と共通理解を図る内容である。この6項目を基に、児童が道徳科の授業に主体的に臨むことができるよう配慮する。

- | |
|--|
| ①道徳科の授業は、道徳的価値について考える時間であること。 ②道徳的価値は大切であっても、なかなか実現できない人間の弱さなども認め理解すること。 ③感じ方・考え方は1つではなく、多様であること。 ④自分との関わりで考えること。 ⑤自分の生き方について考えを深めること。 ⑥ワークシートの使い方や自分の考え・振り返りの書き方についての理解。 |
|--|

図1 道徳オリエンテーションで児童と共通理解を図る内容

(2) 自我関与を促すための手立て

児童に自我関与を促すための手立てとして、道徳教育に係る評価の在り方に関する専門家会議の報告(2016)が示す「質の高い多様な指導方法」のうち「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」と「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れる。同報告では「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」について「登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深める。」(※2)とあり、また「道徳的行為に関する体験的な学習」について「実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決する」(※3)とある。このことから、筆者は、「自我関与が中心の学習」と「体験的な学習」はそれぞれが別々の役割を果たしているのではなく、「体験的な学習」を経ることにより、自我関与を促し、より自己を見つめることができると考える。

体験的な学習には、ロールプレイングや動作化などの表現活動がある。東原(1980)は、ロールプレイングには細かく分けて、再現法(注2)・構成法(注3)・即興法(注4)の3つの方法があると述べている。筆者はこれらの方法のうち、教材上に描かれている場面やセリフをそのまま再現することで、児童にとっても状況が分かりやすい再現法と、役割だけを決め即興的に表現することで、児童が実感を伴って理解しやすい即興法の2つを選択し実践する。

(3) 児童の思考を見取るための手立て

ア 1時間の学びの深まりが分かるワークシート

児童の思考の深まりを見取るために、2つの工夫を取り入れたワークシート(図2)を作成する。

工夫の1つ目は、授業の導入と終末に本時の内容項目に関する同じ発問についての考えを書かせることで、道徳的価値の深まりを見取ることである。

工夫の2つ目は、児童が自分自身を振り返るための自己評価である。自己評価に関する項目は、学習指導要領解説に示されている「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」(※4)

の2つの点について振り返りができるように設定した。

これにより、児童の成長を評価する際の有効な資料として活用できると考える。

図2 学びの深まりが分かるワークシート

イ 児童の成長を年間や学期を通して見取るための視点

表1は、筆者が福岡・椋木(2018)を参考に考えた道徳的価値に関する見取り方シート(以下、見取り方シートと略記)である。これは、児童の思考を分析し、年間や学期を通して児童の考えを見取るための視点である。前述した学習指導要領解説に記載されている「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」の2つの視点から構成している。表1を活用し、児童の発言や振り返りから一人一人がどのような思考をしたのかを教師が記録しておくことで、教師自身が児童の学習状況を把握しやすくなる。

表1 道徳的価値に関する見取り方シート

| | | |
|--------------------|--|-----------------------------|
| 教材理解 | 人物の行動や考え方に関する感想等の記述 ・登場人物は、～ができてすごいと思った ・登場人物は、△△にやさしいと思った | |
| 道徳的価値に関する感情的理解 | 道徳的価値に関する感情的理解を表す記述 ・～ということはすごい ・～ということにおどろいた | 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか |
| 道徳的価値に関する知的理解 | 道徳的価値に関する知的理解を表す記述 ・～が大切ということを学んだ ・～することが必要だということが分かった | |
| これからの自分の生き方(意欲と態度) | 道徳的価値に関する意欲・態度を表す記述 ・これから～したい ・次は～しようと思う | 道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか |
| 道徳的価値に関する自己開示的理解 | 道徳的価値に関する自己内対話を表す記述 ・今の自分には～はできないけれど〇〇できるようにになりたい ・自分には〇〇は必要ないと思っていたけれど、～があるといいことに気がついた | |
| 道徳的価値に関する多面的・多角的理解 | 道徳的価値に関する他者の考えから、自身の新しい考えを表す記述 ・最初は～だと考えていたけど、〇〇さんの考えを聞いてもっと△△だと思った ・〇〇さんの意見から、～という考えもあると思った | |

3 所属校における提案授業

所属校では、第4学年と第5学年を対象にオリエンテーション及び提案授業を行った(表2)。提案授業は、各学年4時間ずつ実施した。研究の成果と課題を明らかにするために、事前事後アンケート、事後記述アンケート、児童及び教職員への聞き取り、毎時間の授業記録、ワークシートの記述を中心に分析を行った。また、所属校及び近隣校教員に筆者が作成した学習指導案やワークシートを用いた教材研究及び授業実践の協力を得た。

表2 提案授業計画

| 学年 | 教材名 | 内容項目 |
|------|--------------|-------------------------|
| 第4学年 | 雨のバスでいりゅう所で | C12 規則の尊重 |
| 第4学年 | 大きな絵はがき | C10 友情・信頼 |
| 第4学年 | 全校遠足とカワセミ | A1 善悪の判断・自律・自由と責任 |
| 第4学年 | 日曜日のバーベキュー | C12 規則の尊重 |
| 第5学年 | 心のレシープ | C10 友情・信頼 |
| 第5学年 | 親から子へ、そして孫へと | C17 伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度 |
| 第5学年 | 流行おくれ | A3 節度・節制 |
| 第5学年 | くずれ落ちただんボール箱 | B7 親切・思いやり |

使用教科書:東京書籍

(1) 道徳オリエンテーション

道徳オリエンテーションでは、「道徳科は何を学ぶ時間であるのか」をテーマに図1の内容を児童の実態に合わせた表現にし共有を図った(図3)。また、オリエンテーションの内容が児童に伝わりやすいものにするために、図3に関する児童の生活経験に根ざしたスライド(図4)を作成し、児童が理解しやすく、学びへの意欲が向上するように取り組んだ。

- ①道徳科は「よりよく生きる」ために考える時間。
- ②分かっているけど、なかなか行動できないこともある。
- ③感じ方・考え方は1つではなく、たくさんある。
- ④自分のこととして感じたり、考えたりする。
- ⑤「なりたい自分」への思いや願いをもつ。
- ⑥ワークシートの使い方を知る。

図3 道徳オリエンテーションで児童と共有した内容

(2) 自我関与を促すための手立て

表2の提案授業計画のうち、第4学年の再現法で行った「雨のバスでいりゅう所で」と即興法で行った「日曜日のバーベキュー」についての授業展開を順に述べる。

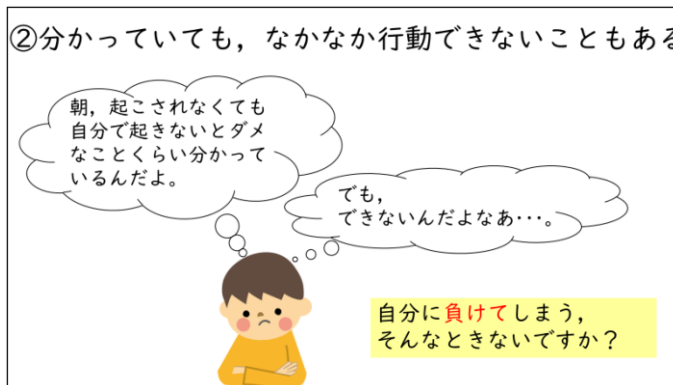


図4 道徳オリエンテーションで示したスライドの一部

「雨のバスでいりゆう所で」(表3)の導入で、道徳的価値に対する授業前の理解を把握する発問をした。基本発問①で早くバスに乗りたいと考えているよし子の気持ちを考えさせた。基本発問②では、お母さんに肩を引っ張られてバスへの乗車を止められたよし子の行動について考えさせた。児童からは「よし子の行動は良くない」という発言が出た。そこで、実際に再現法を用いて、教材上に描かれている場面をつくりロールプレイングを行った。ロールプレイングを通して「どうして、よし子の行動は良くなかったのか」を体験することで自分事となり、「待っているお客さんも同じ気持ちだ」というところに気が付き、話し合いを進めた。演者以外の児童には、演者の表情やしぐさにも注目するように指導した。中心発問では、基本発問②で「いつも優しいお母さんが肩を引っ張る」というお母さんの行動に着目し、ロールプレイングで体験した「待っているお客さんも同じ気持ち」という言葉を意識して、道徳的価値に迫れるように話し合いを進めた。最後に、道徳的価値に対する授業前の理解と授業後の理解との違いを把握するために再度導入時と同じ発問をすることで、1時間の学びの深まりを見た。

表3 「雨のバスでいりゆう所で」授業展開

| 学習活動 | 発問と留意点(※) |
|---|--|
| ○規則の尊重について考える。 範読 登場人物の確認 ○よし子の気持ちを考え話し合う。 | ・(授業前の理解) きまりは何のためにあるのでしょうか。 ・(基本発問①) よし子はどんな気持ちでバスを待っていたのだろうか。 ・(基本発問②) よし子の行動は肩を引っ張られるくらい悪いことだったのだろうか。 |
| ○ロールプレイングをする。(再現法) | ・停留所に並んでいる人になりきってやってみよう。 ※順番を抜かしてはいけないなど示されていないが、必ずあるきまりについて気付けるようにする。 |
| ○よし子の気持ちを考え話し合う。 | ・(中心発問) だまっただまのお母さんを見て、よし子はどんなことを考えたのだろうか。 |
| ○規則の尊重について考える。 | ・(授業後の理解) きまりは何のためにあるのでしょうか。 |
| ○自己評価と振り返り | |

「日曜日のバーベキュー」(表4)の導入で、道徳的価値に対する授業前の理解を把握する発問をした。基本発問①でゴミを捨てられ困っている身近な存在のお母さんの気持ちを考えることで、終末の「ぼく」を通して、道徳的価値について考えられるようにした。基本発問②では、自分ならどのように行動するのかという視点を入れながら、一度捨てたゴミを持って帰るのか、そのままにするのかを考えさせた。児童全員は「持って帰る」という選択をしたので、即興法を用いて、「ぼく」を児童が、児童の相手役を筆者が演者としてロールプレイングを行った。ロールプレイングをする際は、演者以外の児童に演者の表情やしぐさ、即興法ならではの演者のつぶやき等発言にも注目するように指導した。児童の相手役の筆者は、演者である児童が迷ったり、悩んだりする言葉かけを行うように心掛けた。中心発問では、お母さんがゴミを片付ける姿と、ロールプレイングで体験した迷ってしまう心(人間の弱さ)に着目させ、道徳的価値について話し合いを進めた。最後に、道徳的価値に対する授業前の理解と授業後の理解との違いを把握するために再度導入時と同じ発問をすることで、1時間の学びの深まりを見た。

表4 「日曜日のバーベキュー」授業展開

| 学習活動 | 発問と留意点(※) |
|--|---|
| ○規則の尊重について考える。 範読 登場人物の確認 ○ぼくの気持ちを考え話し合う。 | ・(授業前の理解) 何のためにきまりを守るのだろうか。 ・(基本発問①) ぼくはどんな気持ちから、お母さんにごみを捨ててきてあげるといったのだろうか。 |
| ○自分だったらどのように行動するのかを考え話し合う。 | ・(基本発問②) もしあなたが立て札に気付いたら、捨てたゴミを持って帰りますか。そのままにしておきますか。 |
| ○ロールプレイングをする。(即興法) | ・「どうしよう」と迷っているときのぼくの気持ちを考えながらやってみよう。 ※捨ててはいけないと分かっているけど、捨てた方が自分にとって都合がいいという気持ちに気付かせるようにする。 |
| ○ぼくの気持ちを考え話し合う。 | ・(中心発問) 川原に捨てたゴミのことを頭に浮かべながら、ぼくはどんなことを考えたのだろうか。 |
| ○規則の尊重について考える。 | ・(授業後の理解) 何のためにきまりを守るのだろうか。 |
| ○自己評価と振り返り | |

(3) 児童の思考を見取るための手立て

ア 1時間の学びの深まりが分かるワークシート

前述したように、授業の導入と終末に1時間の道徳的価値の深まりを見取るために同じ発問をした。「日曜日のバーベキュー」では「何のためにきまりを守るのだろう」ということについて考えさせた。図5のワークシートを見ると、導入では「世界を平和にするため」と漠然とした内容になっているが、1時間の学びを経ることで終末には「相手の気持ちをよく考えるため。すごしやすい生活をおくるため。」と相手を意識した記述となっている。また、図6のように板書をワークシートと同様の構成にすることで、児童全員が1時間の授業の学びの深まりを確認できるように工夫を行った。

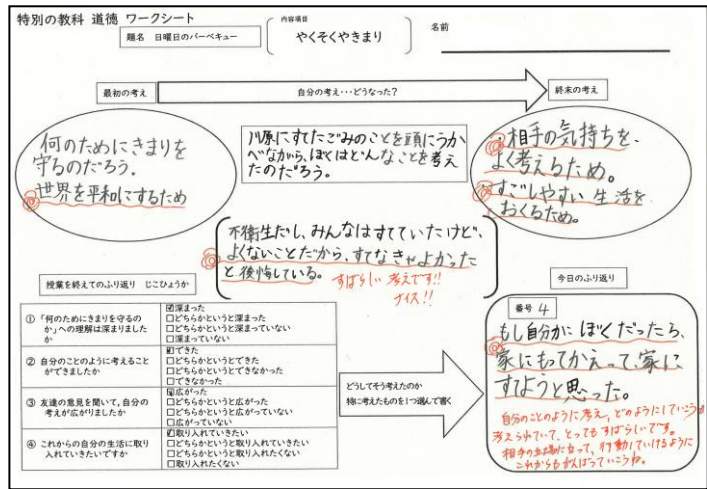


図5 児童のワークシート

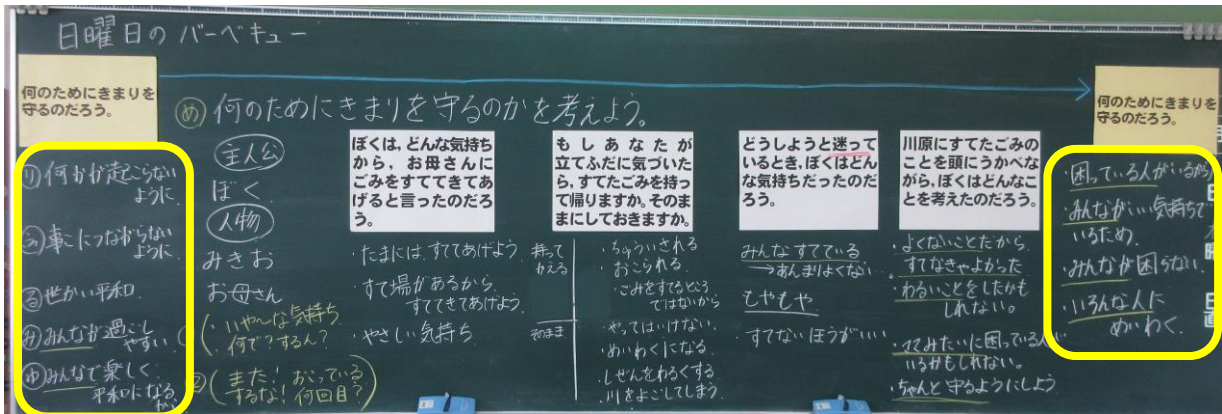


図6 第4学年「日曜日のバーベキュー」の板書

イ 児童の成長を年間や学期を通して見取るための視点

今回の提案授業は、各学年4時間ずつの実施であったが、その中でも見取り方シートの活用を試みた。

図7は表1の見取り方シートの項目を取り出したものと児童の授業での様子を見取った記録例である。各項目に①から⑥の番号を決め、毎時間の児童の発言やワークシートの記述とを照らし合わせ、一人一人がどのような理解を示したのかを記録した。この方法を通して児童の学習状況を把握し、毎時間同じ項目で振り返りを記述している児童には、考えを広げるための朱書きによる助言を行うことができた。

| 教材理解 | 回数 | 第一回 | 第二回 | 第三回 | 第四回 |
|--------------------|----|-----|-----|-----|-----|
| | | 道徳 | 道徳 | 道徳 | 道徳 |
| 道徳的価値に関する感情的理解 | ① | | | | |
| 道徳的価値に関する知的理解 | ② | | | | |
| これからの自分の生き方(意欲と態度) | ③ | | | | |
| 道徳的価値に関する自己開示的理解 | ④ | | | | |
| 道徳的価値に関する多面的・多角的理解 | ⑤ | | | | |
| | ⑥ | | | | |
| | 名前 | | | | |
| | A | ① | ④⑤ | ③ | ③ |
| | B | ② | ④⑤ | ④ | ② |
| | C | ④ | ⑥ | ④ | ⑥ |
| | D | ② | ③ | ②④ | ⑥ |
| | E | ④⑤ | ① | ① | ③④ |
| | F | ① | ⑤ | ④⑥ | ⑤ |
| | G | ⑥ | ⑥ | ③ | ⑥ |

図7 道徳的価値に関する見取り方シートの記録例

4 成果と課題

(1) 道徳オリエンテーション

道徳オリエンテーションは、児童に「道徳科は何を学ぶ時間であるのか」という意識をもたせるための一定の効果が見られた。児童と共有した内容を教室に掲示し、各提案授業の開始時に確認することで、児童は道徳科の学び方を意識して授業に参加することができた。児童の事後アンケートの記述にも「自分に当てはまることが多くて、自分が経験したところのあるものと重ね合わせて考えられた」と回答があった。また別の児童に聞き取りを行ったところ、「今までは、いいことばかり発表しないといけないと思っていたけれど、自分の駄目な部分も発表できた」という肯定的な意見が多数あった。これらのことから、道徳オリエンテーションを行うことにより、これまでの児童の意識を変え、道徳科の学び方や道徳科は何を学ぶのかを考え直す新しい視点を与えることができたと考える。

(2) 自我関与を促すための手立て

ロールプレイングを取り入れた授業を行う中で、児童が真剣な面持ちで考えている様子が見られた。第4学年の「日曜日のバーベキュー」では、児童は、ごみ捨て場以外にごみを捨ててはいけないことをルールやマナーとして分かっている。実際に児童に発問したところ、児童全員が迷うことなく「持って帰る」を選択した。しかし、即興法でごみを捨てた場面をロールプレイングしてみると、自信をもって「持って帰る」と発表していた児童も悩み始めていた。登場人物の気持ちになり、教材上の葛藤や迷いを自分事として捉えている様子が見て取れた(図8)。このことから、ロールプレイングは、実際に演じてみることで児童も予想していなかった気持ちになり、自我関与を促すことに効果があると考えられる。また事前事後アンケートの結果でも変化していることが分かる(図9)。これらの結果から、ロールプレイングで自我関与を促すことは、児童がより課題に向き合い、道徳的価値について考える手立てとなることが分かった。

C(ぼく):お母さんごみを捨ててきてあげるよ。
 T(みきお):一緒に行こう。
 (ぼくがごみを捨てる。その後立て札に気が付く。)
 T(みきお):あっ。見て!
 C(ぼく):捨ててよかったのかな…
 T(みきお):どうする。でも早くしないとみんな待っているよ。
 C(ぼく):でも、ここはごみ捨て場じゃないんだよ。
 T(みきお):でも時間ないよ。
 C(ぼく):みんな捨てているからいいのかな。
 うーん。あんまり良くない気がするけど…。

図8 ロールプレイングにより考えが変容した児童の発言の様子

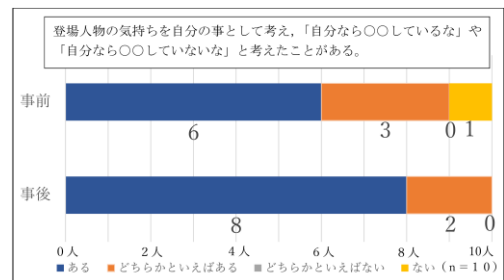


図9 事前事後アンケート結果の一部

課題は、ロールプレイングを効果的に取り入れるために、筆者が演者を意図的に指名し、いつも同じ児童になってしまうこと、みんなの前で演じることに抵抗がある児童にとっては、苦手な取組となることである。また、臨場感をもたせるために筆者が児童の相手役の演者を行ったが、物語に登場する児童同士という設定からは遠ざかっていた。

(3) 児童の思考を見取るための手立て

ア 1時間の学びの深まりが分かるワークシート

工夫の1つ目である授業の導入と終末に本時の内容項目に関する同じ発問をすることについては、どの児童からも思考の変容や深まりが見られた。第4学年の「大きな絵はがき」では、導入と終末に「友達と信頼し合うとはどういうことだろう」と発問をした。導入では「傷つけることを言わない」や「やさしくすること」などの前理解が出てきたが、授業が展開するにつれて深まり、終末には「伝えにくい内容であっても、相手のことを思って伝えること」と友達への信頼について考えることができた。事後アンケートでも

自分の考えが最初は、ふつうの考えだったけど最初最後を比べて最後の考えが最初より深まったりより具たい的になって自分の考えが最初から最後に比べて成長したりしたなと感じた。

図10 事後アンケートの一部

図10に示すような児童の記述があり、児童が自己の成長を実感している様子が見てとれる。提案授業を参観した教員からも「導入と終末に同じ発問をすることで、授業にも一貫性があって分か

りやすかった。児童の考えの深まりが見やすく、取り入れていこうと思う」という意見があった。このように、1時間の学びの深まりが分かるワークシートを活用し、導入と終末に同じ発問に対する考えを書かせることで、児童が自分の考えの深まりに気付くことができた。

工夫の2つ目である児童が自分自身を振り返るための自己評価では、児童が最も深く考えた項目について視点をもち、記述することができた。そのため、どの児童も感想や出来事を書くのではなく、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて記述し、考えを深められている振り返りとなっていた(図11)。

課題は、視点を絞り、書きやすくなった一方で、振り返りの記述がパターン化した児童がいたことである。いつも同じ視点で振り返っているため、多角的な考え方に発展したとはいえない。

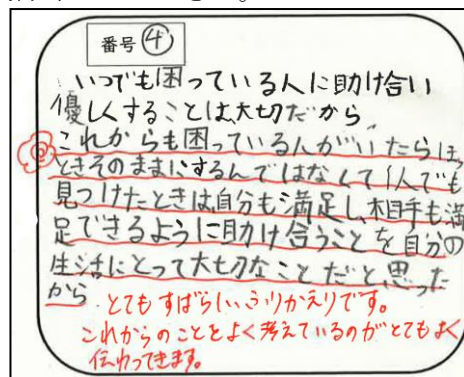


図11 児童のワークシートの一部

イ 児童の成長を年間や学期を通して見取るための視点ワークシートの記述や発言の中から、児童の思考の深まり

を捉え、表1の見取り方シートを基に思考を見取っていくと、各授業で児童がどのようなことを中心に考えていたのかが見えてきた。ある児童のワークシートの記述に「ぼくは、たまにやくそくをやぶったりするけど」とあった。その記述から自分の弱さを自己開示していると分かることから、表1の「道徳的価値に関する自己開示的理解」と分類することができる。今回は各学年4時間ずつという短い時間だったが、この方法を用いて年間や学期を通して見取り、記録することで大きくりなまとまりを踏まえた評価をすることや、児童の成長を積極的に受け止めて評価することができる。実際に提案授業を参観した教員に見取り方シートを提案したところ「児童が年間を通してどんなことを中心に考えていたのか見取りやすくなった」という意見があった。

課題は、児童の発達段階が学年によって異なるため、本研究で用いた見取り方シートは、全ての学年で活用することが難しいと考えられることである。

5 今後に向けて

本研究を通して、児童に自我関与を促すことで、道徳的課題を自分事として捉え、道徳的価値について深める授業を実践することができた。

今回の提案授業では、自我関与を促すために体験的な学習の中でもロールプレイングを取り入れたが、今後は、学年に応じたロールプレイングの手法を模索していくと同時に、教師の演者としての介入についても熟考していきたい。また、ロールプレイング以外にも児童が道徳的課題を自分事として捉えることができる方法についても考えていきたい。

児童が自分自身を振り返るための自己評価では、児童が多角的に考えることができるようになるためにも、様々な視点から振り返っている児童のワークシートを紹介したり、教師の朱書きにより児童の考えの幅を広げさせたりと様々な手立てを行っていく。

「道徳的価値に関する見取り方シート」については、児童の成長を年間や学期を通して大きくりなまとまりを踏まえた評価をする見通しはついたが、児童の成長に即して、6年間を系統立てて評価し、児童に寄り添うための評価の視点となるように低・中・高学年のそれぞれの発達段階に応じた「道徳的価値に関する見取り方シート」の作成を考えている。

学習指導要領解説「道徳科の目標」には「道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。」(※5)と示されている。児童のよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくために、道徳科の授業の充実はもちろんのこと、日々の学校生活の中で、児童一人一人の道徳性を育てていくように、これからも取り組んでいきたい。

<注釈>

注1 毎時間の授業における児童の学習状況を総合的な評価を行う際の枠組み

注2 事実あったことをそのまま再現したり、身近な生活事実や資料に描かれている場面を自分なりに解釈し、動作や言葉で表現したりして、教室の中に再現する方法。

注3 教師が意図的に設定した場面の状況や条件から、自分たちの生活を基に表現する方法。

注4 問題について役割だけを決めて、自由に即興的に演技させる方法。

<引用文献>

※1 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.109(2018)

※2 道徳教育に係る評価の在り方に関する専門家会議『特別の教科 道徳の指導方法・評価等について(報告)』 p.6(2016)

※3 道徳教育に係る評価の在り方に関する専門家会議『特別の教科 道徳の指導方法・評価等について(報告)』 p.6(2016)

※4 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.110(2018)

※5 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき p.16(2018)

<参考文献>

- ・伊崎一夫『『考え、議論する道徳』への質的転換に関する研究(1)ー読み物教材における『自我関与』の強化ー』『奈良学園大学紀要第9集』(2018)
- ・小田哲志・池内浩平・橋本巖「道徳科授業の効果的展開に関する一考察」『愛媛大学教育学部紀要第65巻』(2018)
- ・加藤宣行『『考え、議論する道徳』に変える発問&板書の鉄則45』明治図書(2018)
- ・中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)』(2016)
- ・永田繁雄『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科道徳』明治図書(2016)
- ・西野真由美 鈴木明雄 貝塚茂樹『『考え、議論する道徳』の指導法と評価』教育出版(2017)
- ・東原岩男・青木孝頼・金井肇・佐藤俊夫・村上敏治(編)『新道徳教育辞典』第一法規(1980)
- ・福岡茂樹・椋木香子「自分自身との関わりの中で道徳的価値理解を深める授業に関する研究ー小学校4年生の道徳授業における多様な指導方法と子どもの反応の分析を中心にー」『宮崎大学教育学部紀要第91号』(2018)
- ・三浦研一「特別の教科 道徳を見据えた実践の研究ー質の高い話し合いを生み出す指導方法を中心にー」『福岡教育大学紀要第66号第6分冊』(2017)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき(2018)
- ・矢田良博「学ぶ意欲の向上を図る道徳科の授業づくりー多面的・多角的に考えさせ、成長を実感させる工夫を通してー」『和歌山県教育センター学びの丘研修員報告書』(2019)
- ・山口圭介「特別の教科 道徳の評価に関する一考察」『玉川大学教育学部紀要第17号』(2017)
- ・和田幸司「小学校『特別の教科 道徳』における授業改善の視点ー『読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習』を中心にー」『姫路大学教育学部紀要第10号』(2017)